

事務事業名		市民講座開催事業		<input type="checkbox"/> 実施計画登載事業 <input type="checkbox"/> 総合戦略登載事業	
政策体系	政策名	03 豊かな心を育む人づくりの推進		事業期間	
	施策名	14 生涯学習の推進			
	基本事業名	02 学習機会の充実		<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始 昭和 60年度～)	
根拠法令				<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 【計画期間】 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入	
所属	部課名	協働まちづくり部中央公民館		予算科目 会計 款 項 目 事業 01 10 05 03 11 事務事業区分 A 政策事業 B 施設整備 C 施設管理 D 補助金等 <input checked="" type="radio"/> E 一般(A～D以外)	
	課長名	山岸 健悦郎			
	係名	中央公民館	電話 0192-26-3166		
	担当者	佐藤 拓美	内線 432		
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)				全体計画(※期間限定複数年度のみ)	
・新たな生活様式を踏まえ、情報化、国際化への対応やリカレント教育の視点を取り入れるなど、市民の学習ニーズや地域課題に対応した講座などを快哉し、市民の学習ニーズや地域課題に対応した講座などを開催している。 ・具体的には、大学との連携による講座、初心者向け英会話講座、市民IT講座を開催している。 ・業務の主な手順は、①学習計画を立案②講師の依頼③市民への周知④学習講座の実施⑤学習アンケートの依頼⑥学習アンケートの集約・分析⑦事業の成果や課題の検証となる。 ・事業費は、講師謝金・旅費、消耗品、講座開催委託料などに支出される。				総投入量(千円) 事業内訳 国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計(A) 0 人件費 正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計(B) 0 トータルコスト(A)+(B) 0	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
① 手段(主な活動)		名称 単位	
前年度実績(前年度に行った主な活動)		ア 実施回数	回
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		イ	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		ウ	
市民		⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		カ 人口	人
④ 結果(基本事業の意図: 上位の基本事業にどのように貢献するのか)		キ	
		ク	
		⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
		サ 延受講者数	人
		シ 満足度の好評価比率	%
		ス	

(2) 総事業費・指標等の推移		年度	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(目標)	5年度(目標)	6年度(目標)	7年度(目標)
投入量	事業内訳	国庫支出金	千円					
		都道府県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円	1,452				
		一般財源	千円	230	1,129	1,105	1,105	1,105
		事業費計(A)	千円	1,682	1,129	1,105	1,105	1,105
	人件費	正規職員従事人数	人	3	4	3	3	3
		延べ業務時間	時間	370	370	370	370	370
		人件費計(B)	千円	1,480	1,480	1,480	1,480	1,480
		トータルコスト(A)+(B)	千円	3,162	2,609	2,585	2,585	2,585
⑤ 活動指標		ア 回	15	20	15	15	15	
⑥ 対象指標		カ 人	34,796	34,224	34,128	33,887	33,647	
⑦ 成果指標		サ 人	265	328	300	300	300	
		シ %	92	100	80	80	80	

事務事業ID	0869	事務事業名	市民講座開催事業
--------	------	-------	----------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
 多様化する市民の学習要求と生涯学習時代に即応した専門的かつ高度な学習を提供することを目的として、昭和60年に第1回講座が開催された。また、平成29年11月、当市は、アメリカ合衆国を相手国として2020年東京オリンピック・パラリンピックを盛り上げるために新設された国の「復興『ありがとう』ホストタウン」に選定された。今後、市内で外国人労働者や観光客等と接する機会が増加すると見込まれるため、市民の国際感覚の醸成や外国人とのコミュニケーション能力の向上を目指し、平成30年度から英会話講座開催事業を開始した。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？
 近年、高齢化や核家族化が進むにつれ社会環境がおおきく変容してきており、講座における受講比率も高齢者の割合が年々高まっている。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
 参加者は学習意欲が高く、講義内容に対する要望は多様である。アンケートからは引き続き開催して欲しいという回答が多い。また、平日仕事で受講できない市民のために、一部の学習を夜間や休日に実施し、市民の学習ニーズに応えるべきとの声も寄せられている。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】	市民の学習要求に応じた多様な学習機会を提供し、市民への学習活動を支援することにより、社会性豊かな心を育むことができる。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】	市民が、市内にいながら、気軽に専門的な学習を受けられる機会は他になく、学習活動の支援という点で講座の開設は不可欠である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】	市民の学習要求に応じた専門的な分野の学習機会を提供する事業であり、対象、意図ともに適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】	市民の希望する講義内容や講師の選定をし、魅力ある講座とする。特に若年層の市民(仕事をしている市民)が受講し易い環境を整えるため、ターゲットを絞った学習内容・開催時間を設定するなどして、参加しやすくなる内容に変えていく。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】	市民に専門的かつ高度な内容の学習機会の提供ができなくなり、市民の生涯学習のきっかけ作りが減退してしまう。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】	事業費の大半は講師謝金や旅費が占めており、事業費が削減されれば、専門的な知識を有する講師の選定や講義内容が限定されことにより、市民の学習意欲が減退する恐れがある。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】	隔年開催とすれば、人件費等は削減できると考えられるが、専門的な学習機会の提供の場が減り、市民の資質・教養・文化の向上に貢献できない。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】	全市民を対象として実施しているが、高齢者層で固定化の傾向がある。市民IT講座は定員が限られ、キャンセル待ちの方が複数出た。次年度の募集においては新規申込者を優先する等、公平性に配慮した手法を取り入れることとする。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性	1 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) 3 終了・廃止・休止	市民の多様なニーズの把握に努め、魅力ある学習メニュー作りに取り組む。 また、今年度も明治大学との連携事業として、時宜に合った講座を実施する。 なお、英会話講座は、類似事業を実施している団体があることから、令和3年度をもって事業廃止とした。	(2) 改革・改善による期待成果																					
(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等	仕事をしている若年層・壮年層の市民が受講しやすいよう開催時間(平日の夜間や土・日曜日)を工夫し、受講者が固定化しないようにするとともに、受講者が参加しやすい会場設定についても工夫する。		左記(1)の改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																					
			<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		●																					
	維持			×																				
	低下		×	×																				

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
1 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) 3 終了・廃止・休止	魅力ある学習メニューを作成するため、市民ニーズ把握に努めるとともに、明治大学と連携した事業については、より気軽に参加できるような学習メニュー設定を検討する。 IT講座等の人気のある講座については、受講者が固定化しないように、新規申込者を優先する等、公平性に配慮するとともに、学習機会の拡充についても検討する。また、仕事をしている若年層・壮年層の市民が受講しやすいよう開催日時等の見直しを行い、受講者に配慮した講座運営に取り組む。